

生き抜く力とは何か

吳 旻（筑波大学院／カリキュラム）

学 校 III

- ◆種別：DVD ビデオ（映画）
- ◆監督：山田洋次
- ◆製作年：1998 年
- ◆製作国：日本
- ◆発売／販売元：松竹株式会社
DVD 発売中 \ 3,990（税込）
- ◆時間：本篇 133 分＋特典
- ◆音声／字幕：日本語

あらすじ

主人公の小島紗和子は自閉症の息子を持つシングル・マザー。リストラされた後に職業訓練校に入り、多くの苦難を乗り越えて卒業、再就職を果たす。人生の再出発をかけ、ボイラー技師の資格を取る為に学ぶ「学校」。その情景から、友情とは何か、仲間の力とは何かを考えさせられる。観る者に困難を乗り越えて生きる力を与え、励ます物語である。

シーン再現

シーン I <職業訓練校の卒業式の日>

野村先生：一番つらいのは、作業服姿に対する偏見と差別ですけど、あなたはそういうことを乗り越えてきた人ですから、ね。幸せになってください。

小島：ありがとうございます。

シーン II <乳ガンの再検査結果を聞いて帰宅後、息子のトミーに語る>

小島：母さんね、ガンなの。乳ガン…（略）…でも、母さん、怖くないよ。私は、いっぱい勇気があって、強いんだから。お医者さんから、トミーの障害の話聞いた時も、父さんが突然死んでしまったときも、会社をクビになったときや、高野さんと別れたときも、しっかり頑張って、乗り越えてきたんだから。母さんは大丈夫。ちっとも怖くなんかないからね。何よ、これくらいのこと。（涙）

©1998 松竹株式会社／日本テレビ放送網株式会社／住友商事株式会社／株式会社角川書店／読売新聞社

Chapter	
1.	リストラ／5'52
2.	プライドの高い人／16'00
3.	雨の新聞配達／6'17
4.	掃除当番／13'50
5.	高野さんが来た日／11'13
6.	モーニングコール／6'35
7.	それぞれの事情／5'32
8.	海辺の夏休み／10'56
9.	交通事故／5'32
10.	ひとときの安らぎ／13'06
11.	恋の季節／9'35
12.	お別れ／11'07
13.	発病／6'39
14.	素晴らしい仲間／9'50

この映画に描かれた人間の生き抜く力は、二つの面から理解できる。一つは、苦しい生活の中でこそ培われる信念と根性。もう一つは、生活を支えるための技能である。

夫を亡くした主人公の小島は、リストラで職を無くし、職業訓練校に通いながら自閉症の息子トミーと共に支え合いながら生きている。息子のことで偏見を受け、非難されるときもあった。問題を起こした息子のために大雨の中を謝罪してまわったことや病院で看病しながら徹夜で勉強したこともある。しかし、彼女はいつも前向きだった。特に印象的なのは、映画の最後、乳ガンの再検査の結果を聞く場面だ。その時も、彼女は自分一人だけであった。そして家に帰り、何も分からないトミーの前で涙を流し語る様子(シーンII)に、筆者はとても感動した。どんなに不公平で理不尽なことがあっても、小島は粘り強く乗り越えていく。大きな苦難を乗り越えたからこそ、彼女は誰よりも強くなっていった。これは、生活によって身につけた生き抜く力ではないだろうか。困難にあったとき、頼れる人がいないとき、寂しいとき、苦しいとき…あきらめず、さらに強くなり、すべてのことを乗り越える力である。

そして、職業訓練校におけるボイラー技師向けのクラスの中で、小島紗和子は唯一の女性である。授業の内容も難しく、理解できないこともしばしばであった。ボイラー技師という職業に就く人は、そもそもほとんどが男性である。そのため、作業中も、女である小島を差別や偏見を持って見る者もいる。しかし、このような状況で、彼女は男に負けないように頑張って勉強して、多くの知識や技能を身につけて、資格を取った。そして、順調に再就職できた。生活を支えるための技能や知識を持つことができれば、社会がどのように変化しても、対応できるだろう。社会に入る前に学校で学んだ学習内容や経験を、いかに活用し自分のものに転換できるのかは、非常に重要である。

この映画の生き抜く力とは、困難に直面して乗り越える力であると同時に、生きていくために必要な知識と技能を意味している。そして、学校の学習・活動の内容、指導体制、学習・生活の環境などは、今日の学校教育の課題として、注目すべきではないだろうか。教育は、人に知識を教えることだけではなく、人の心を育てることである。同時に、学んだ知識を通して、価値を作り、人生を支えることであろう。

人生の再出発は、いつになっても遅くはない

Information

1998年10月17日(土)公開の日本映画。日本テレビ開局45年記念作品。文部省選定。第11回日刊スポーツ映画大賞/山路ふみ子映画賞などを受賞した。

【DVD】映画『学校』シリーズは、本冊子で取り上げた2編以外に次のものがある。養護学校を舞台にした『学校II』(1996年)、不登校の少年の旅を描いた『十五才 学校IV』(2000年)。DVD-BOX『山田洋二監督名作選III』(発売/販売:松竹株式会社)には、『学校』シリーズ4編すべてが収められている。